

小学校の統合に向けた地域説明会（郡山小学校 12月3日開催分）  
結果概要

- 日 時：令和4年12月3日（土） 10：00～11：05
- 場 所：郡山小学校 屋内運動場
- 対 象：小学校の保護者，入学予定者の保護者，学校運営に携わった方，  
地域の方々
- 参加人数：32人
- 出席者：・教育委員会事務局  
教育長  
教育次長  
参事  
参事兼教育政策課長  
教育政策課主幹兼政策推進グループリーダー  
学校教育課副参事兼教職員グループリーダー  
  
・事務局  
教育政策課政策推進グループ

○開催概要：次のとおり

- 1 開会
- 2 出席者紹介
- 3 教育長挨拶
- 4 資料説明（これまでの経緯，再編の考え方，今後の取組等）（教育政策課長）
- 5 質疑応答

（参加者）

- ・ 天名小学校，合川小学校の説明会に参加した者である。2校の説明会では，統合に反対の意見や，統合するにしても進め方に対する疑問の声もあった。
- ・ そのような結果も踏まえて，今後はどのように進めていくのか。
- ・ 学校を存続することも含めて検討するのであれば，複式学級に関する見学会や説明会などの機会が必要に思う。
- ・ 子どもたちの声を聞くという取組も考えてほしい。

（教育委員会事務局）

- ・ 天名小学校，合川小学校の説明会では，学校存続を望む意見もいただいた。一方で，統合を望む意見もいただいた。
- ・ 今後は，本日の説明会の結果も含め，3つの会場で頂いた意見を真摯に受け止め，整理をさせていただく。
- ・ その上で，次の計画に向けた整理を行い，改めて，皆さんにお示しをさせていただきたいと考えている。
- ・ 子どもたちへの伝え方やアプローチの仕方については，学校をはじめ教育委員会事務局が連携して今後検討していく。

(参加者)

- ・ 説明会の結果を踏まえ、どのように検討をしていくのか。
- ・ また、その結果を、我々にどのような形で伝えてくれるのか。
- ・ 私は、あり方検討会議のメンバーなので結果を知ることができるが、統合の当事者である児童の保護者や、未就学の子を持つ親にどのように伝えていくのか。
- ・ スケジュールの都合など様々な理由で説明会に参加できない人も、速やかに知ることができるよう考えていくべきではないか。
- ・ 現在、どのような議論が行われているのか、どういう考えでこの方向性になっているのかなど、議論の過程や背景がタイムリーに知ることが出来るようにしてほしい。
- ・ 情報の発信の仕方を考えてほしい。
- ・ 天名小学校、合川小学校の説明会を踏まえて、教育委員会としてどのような印象を持ったのか教えてほしい。

(教育委員会事務局)

- ・ これまで情報発信の仕方として、「広報すずか」に合わせて対象地域に「教育委員会のお知らせ」として資料にまとめて配布してきたほか、自治会での回覧、学校を通じた各家庭への配布などで対応してきた。
- ・ 鈴鹿市教育委員会のホームページでは、学校規模適正化に関する専用ページを設け、これまでの取組を掲載している。
- ・ 今後は、出来る限り情報を早く伝えられるように、これまでの方法に加えて、ホームページを活用するなど検討していく。
- ・ 天名小学校、合川小学校の説明会を踏まえた今後の取組については、これまでいただいた意見等を真摯に受け止め、整理をさせていただく。

(参加者)

- ・ 10月に開催された説明会は、保育園や幼稚園の運動会などの行事と重なり行けなかった人もいる。
- ・ 説明会の内容を後日、知ることが出来るような取組を検討してもらえるとありがたい。
- ・ 統合するのであれば、子どもたちの交流の機会をつくってほしい。
- ・ 統合しないとしても、いずれは同じ中学校に通うことになるので、栄小学校も含めて交流の機会をつくってほしい。

(教育委員会事務局)

- ・ 天名小学校区や合川小学校区では、これまで説明会のほかにも、PTAの行事等の機会に合わせて意見交換をしてきたほか、地域の集会所などで未就学の子を持つ親と意見交換を行うなど様々な機会を設けてきた。
- ・ 郡山小学校区においても同様に、様々な機会を設けていきたいと考えている。
- ・ 現在、天栄中学校に入学する4つの小学校では、5年生で合同学習を実施している。6年生では、天栄中学校の1日体験を実施している。
- ・ 統合するとなれば、教育委員会としても学校と連携し、更なる交流機会を検討していきたい。

(参加者)

- ・ 令和5年4月に郡山小学校に入学する子を持つ親である。
- ・ 就学児健診の際にも説明を受けるなど丁寧に対応をしてもらっているが、統合に対する具体的なイメージが湧かない。
- ・ 統合に対しては、期待と不安の両方の気持ちがある。
- ・ 小学校の統合は、全国はじめ県内でも多く事例がある。地域の事情もそれぞれ異なるが、幾つかの事例を通じて、統合後の学校の姿を知ることができれば、イメージをある程度、持つことができる。

(教育委員会事務局)

- ・ 三重県内でも様々な統合の事例がある。
- ・ 情報発信を強化してほしいという意見もいただいているが、これらの情報も含めて、児童の保護者や未就学の子を持つ親など多くの方に事例の紹介をはじめ、情報発信の強化に努めていく。

(参加者)

- ・ 今回の説明会は、保護者や未就学の子を持つ親、地域の方など大人ばかりである。
- ・ 子どもたちは、どう思っているのか。子どもたちの思いをしっかりと聞いてほしい。
- ・ 子どもたちの中には、同級生が増えて喜ぶ子もいれば、大人数になり不安を感じる子もいる。気持ちは、それぞれである。
- ・ 私の子どもは、統合することに「とても緊張する。」と言っていた。
- ・ 今回の説明会の周知チラシに記載があったが、鈴鹿市が目指す教育方針はどういうものか教えてほしい。
- ・ なぜ統合しないと、鈴鹿市の目指す教育環境を実現できないのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 統合するのであれば、統合までの期間においても、学校間の交流を更に増やしていきたいと考えている。
- ・ オンラインであれば日常的な交流も可能である。
- ・ 統合する時点で、初めて顔を合わせるのではなく、既に友人関係が構築しているような、そんな関係を目指して取り組んでいきたい。
- ・ 本市では、一定規模での教育環境を確保していきたいと考えている。
- ・ 今後、子どもたちが社会に出ていくに当たり、多様な考えに触れる機会をつくっていきたいと考えている。
- ・ これまで天名小学校や合川小学校では、学校を存続した形で、そのような教育環境をつくることはできないかなど、様々な観点から手法を検討いただいていた。
- ・ そのような中で、近隣小学校との統合という手法が実現可能性も含め現実的であるとの考えから提案をさせていただいた経緯がある。
- ・ これからの社会は先行きが不透明である。それは保護者の皆さんも認識いただいているところである。
- ・ その中で、子どもたちが自分自身で考え、どのように生きていくのか、そういった生きる力を育てていきたい。
- ・ そのためには、多様な考えに触れることができる教育環境は重要であると考えて

いる。

- ・ 本市では、そういった方針の下、取組を進めてきているので御理解と御協力をよろしく願います。

(参加者)

- ・ 保育園に通う子を持つ親である。
- ・ 保育園や幼稚園とも、小学校の統合に関する情報などについては共有されているのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 保育園や幼稚園は、様々な地区から通われているということもあり、現在のところ、学校規模適正化に関する情報共有は行っていない。
- ・ 今後は、情報発信を強化していきたいと考えているので、保育園や幼稚園とも情報共有していけるよう手法を検討していきたい。意見や考えなど聞かせていただいたらありがたい。

(参加者)

- ・ 天名地区の者である。
- ・ 先週の天名小学校、合川小学校での説明会には、都合がつかず参加できなかったもので、本日参加した。
- ・ 再編の考え方の中で、「児童へのより良い学習環境の視点」とあるが、具体的には、どのような内容か。
- ・ 私は子どもの見守りを行っているが、天名地区は、そういった活動に熱心な地域である。そういった地域の良さや取組が、統合後も失われないようにしていきたい。
- ・ 今回の統合により、学校名や校歌はどうなるのか。

(教育委員会事務局)

- ・ これまでの検討の中で、地域の皆さんが子どもたちを大切に思い、地域で育てるという風土が根付いた地域であることは認識している。
- ・ また、各地域にはそれぞれの歴史や文化があることも認識している。
- ・ 統合となれば、3校それぞれの歴史や取組がしっかりと引き継がれるよう、取り組んでいきたいと考えている。
- ・ そのためには、地域の方の協力も必要である。引き続きの御理解と御協力をお願いする。
- ・ 学校名や校歌については、天名小学校での説明会においても質問をいただいているところである。
- ・ 統合後の学校名や校歌は、子どもたちの今後の学校生活にも影響するのではとの意見もいただいているところであるので、今後、皆様の意見や考えを伺いながら、検討を進めていきたいと考えている。

(参加者)

- ・ 1点目として、統合を通じて、地域が分断することがないように進めていただきたい。
- ・ 2点目として、統合するのであれば、志摩市の事例のように、ワークショップ形式を取り入れ、地域の皆さんと共につくり上げていく、そのような進め方を願

いしたい。

- ・ 3点目として、松阪市の鎌田中学校では、地域交流センターと連携した取組を進めている。このような取組は、今後、鈴鹿市でも必要ではないか。
- ・ この3点について、鈴鹿市や鈴鹿市教育委員会だけで進めるものではなく、地域住民も一緒に進めていくべきではないかと考える。
- ・ 1点目について、私は、東日本大震災の復興で東北地方に出向していた経験がある。その中では、震災を契機に分断された地域もあれば、そうでない地域もあった。分断されない地域は、建設的な対話が行われ、一方的ではなく、双方向に様々な議論が行われていた。
- ・ 統合に向けた議論においても、そのような話し合いが行われるよう、引き続き、場づくりをお願いしたい。
- ・ 2点目に関連して、教育基本法第13条にあるが、学校は、家庭や地域が相互に連携、協力して共につくり上げていくものである。
- ・ 是非、そういった意識で地域と建設的に議論を行い、取組を進めていただきたい。
- ・ 3点目については、ハードの関わる問題でもあるので、どこまで出来るかという課題はあるが、地域の方が学校に入っていくことができれば、防犯上のメリットのほか、学校が活性化すると考える。

(教育委員会事務局)

- ・ 学校は、地域の方に支えていただき多くの取組を実施している。
- ・ 統合が地域の分断につながらないように、十分留意して取り組んでいきたい。
- ・ 紹介いただいた取組は、今後の参考にさせていただきたい。

(参加者)

- ・ 子どもたちに意見や考えは聞かないのか。
- ・ 合川小学校での地域説明会では、統合に対する考えや意見についてはアンケートに記載してくださいとの説明があったが、その結果はどうなったのか。

(教育委員会事務局)

- ・ 子どもたちの考えや意見については、実施手法や内容について学校と連携し、検討していきたいと考えている。
- ・ 説明会のアンケート結果については、本日の結果も含めて、地域の皆さんに御覧いただくよう、ホームページへの掲載に向けて、集計や整理を進めている。

(参加者)

- ・ 合川小学校の説明会にも参加した者である。
- ・ 天名小学校や合川小学校での具体的な検討は、令和2年から開始されたと資料にあるが、ちょうどコロナウイルスの感染拡大が始まった時期と重なる。そのようなコロナ禍で、どのように会議を進めてきたのか。
- ・ コロナ禍を契機に、会議のあり方をはじめ、社会の常識が大きく変わった。
- ・ 学校の統廃合についても、これまでのようにどこかの小学校を閉じて、どこかの小学校に統合するという発想だけでなく、新たな形もあるのではないか。
- ・ 全国のモデルケースになるような形をこの機会に検討しても良いのではないか。
- ・ その中で、統合するにしても、学校を存続してほしいと願う方たちの思いにも寄

り添える形があるのではないか。

- ・ 合川小学校での説明会でも出ていた意見だが、市内で人口が多い地域は近鉄沿線である。一方、近鉄沿線は海沿いであり、災害のリスクもある。
- ・ そういったリスクの観点も含め、俯瞰した視点からの学校再編を考えていく必要もあるのではないか。

(教育委員会事務局)

- ・ 天名小学校や合川小学校での会議は、まん延防止措置の発令期間は実施せず、発令されていない時期を見計らい開催してきた。
- ・ あり方検討会議は、天名小学校では全8回、合川小学校では全7回開催してきた。
- ・ その他、多くの人数にならない環境の下で、保護者や未就学の子を持つ親、地域の方との意見交換の場など様々な機会を設けてきた。
- ・ 今後は、提案いただいたICTの活用や防災面の視点も持ちながら、検討を進めていきたいと考えている。

(教育長)

- ・ 本日は、多くの御意見をいただき、感謝申し上げます。
- ・ 今後も、子どもを中心に考えていくとともに、統合を機に地域の分断につながらないように十分留意していく。
- ・ 三重県内の南部では、3割ほどの学校が統廃合している。
- ・ 北勢地域の市町では、統合により地域に課題を残したケースもある。
- ・ 本市では初の取組となることから検討課題は多くあるが、基本方針に基づき、本日晒した再編の考え方に沿って進めていきたいと考えているが、地域に課題を残すことないように、慎重に進めていく。
- ・ 本市の西部地域も児童生徒数の減少傾向が続くことから、基本方針に基づき、この南部地域同様、今後、説明機会を持ちながら進めていきたいと考えている。
- ・ 今後も何とぞ協力をお願いします。

以上